

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスかなめ				公表日	2026年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		定員10名、面積101.84㎡ 部屋数が多いため、学習室、運動室、静養室、職員室等を明確に分けている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		定員10名 職員5名、臨時職員14名 計19名 当日の利用者の特性に応じたシフト	個別から集団で活動できるようになるための遊びの機会を増やす	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・室内に余計な物を置かない配慮 ・階段に手すりの設置 ・子供が否定されない雰囲気作り ・カードの利用 ・感染症対策		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日の清掃 ・学習、工作ゾーン、運動ゾーン、休憩ゾーンの明確化		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・何をやる場所か明確 ・刺激が少ない(匂い、光、音) ・子供が長時間1人にならない運用		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者によるアセスメントの質向上計画 ・個別支援計画(ISP)の目標設定 ・事業所全体の年間計画(活動・研修・リスク管理)		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・定期的な面談(担当者会議、モニタリング) ・ご意見箱の活用 ・家族支援の実施	家族支援を通じた意向把握の活動を増やす	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員会議、各種研修の実施 ・会議、研修の記録 ・毎日の終礼で、気づきの共有		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・公認心理士による評価 ・地域との連携	・今後、地域とよりよい関係を構築したい 避難、消火訓練の参加等	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修の計画、実施、記録 ・研修費の補助(法人負担)	・社内研修の機会を増やしたい	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・アセスメント ・個別支援計画 ・HPに公表		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・面談して作成		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・職員会議、各種研修の実施 ・会議、研修の記録		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・職員会議、各種研修の実施 ・会議、研修の記録		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			ケース会議、日常のミーティングにおいてアセスメントを活用したい	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			放課後等デイサービスガイドラインに関する研修を企画、実行する	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で話し合っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		外遊びを通じて行っている。場所や内容を変更することで工夫している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		職員間で話し合いを行い、計画を作成し、支援を行っているが、職員への周知が不十分であった。	その日の児童の状態に応じて対応をし、利用児が楽しく活動できるように日頃のミーティングで報告し、支援についての統一化を図っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝のミーティングで確認を行い、児童受け入れ前にも必要に応じて、再度、確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		退社前にミーティングを行い、支援の共有や対応についての検討を行っている。	ミーティングに参加できない職員には記録の回覧を行い、今後も確認を行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録の書き方等についても話し合いを行い、情報共有しやすいように改善を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの検討は行っているが周知が不十分である。	ケース会議や日頃のミーティングで計画の周知及びモニタリングについても報告し、職員員の資質向上につなげます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインについての周知が不十分であると考えられる。	新年度には、ガイドラインについての研修も行い、職員員の資質向上に繋げます。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		外活動を中心に支援を行っているため、児童が自己選択できるような場面は多いと考える。おやつの提供に関しても自己選択できるよう工夫している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者と児発管が参加している状況である。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		児童の主治医を把握している。また、学校開放日には、職員が学校へ出向き、本人の状況を観察している。また、学校と利用児のカンファレンスを行い、連携を取っている。	職員に周知が出来ていないので、定例会議や日頃のミーティング、ケース会議の中で情報共有を図っていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年間行事や下校時刻については、保護者を通じての連絡が中心であるが、送迎時に児童の状況などについて情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前に児童発達支援事業等からサポートブックをいただいている。	今後も必要に応じて情報共有をしていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現時点では移行した児童がおらず、共有はしていない。	必要に応じて、情報共有は行う予定にしている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		専門機関との連携は電話などでとれている。	計画相談とは連携が出来ているがその他の機関とは連携が取れていない。今後、研修等に参加できる時には参加していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園活動で遊びを通して、地域の子供と交流している。	公園活動での「遊び」を通して、障がいのある無関係なく交流活動を継続していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			基幹相談センターの研修会に積極的に参加していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時等で保護者に対し、十分に話を行い、共通理解は持っている。	送迎時等で伝えてはいるが、重要な情報は電話や訪問で伝えて共通理解の強化を行っている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			今後、内部研修にて家族支援プログラムについても行っていく予定である。また、保護者に対しても参加できる研修や情報についてSNS等を通じてお知らせしていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時に説明を行い、担当者会議、モニタリング、家族支援等にてフォローしている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画を作成し、支援内容の説明を行い、保護者からの同意は得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や電話、面談を行い、対応を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	「全体会」を開催しないでの声もあるため、個別に研修を行っている。	全体保護者会については、保護者等の意見も踏まえて、今後、検討していく。また、個別の状況に応じて、保護者同士の連携は今後も行っていきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ラインにて日々の活動状況を報告している。	リタリコのホームページを活用し、活動を掲載しています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きのロッカーに個別情報については保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カード等を利用する等配慮している。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		挨拶、掃除などは、毎日行っている。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成しているが、保護者等に対しての周知が不十分である。	今後は、訓練を実施したことをブログで発信したり、マニュアルのホーム掲載も検討していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP策定済み。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時や計画更新の際には、必ず確認するようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーの確認を行っている。	必要に応じて指示書の提出を依頼していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	ホームページに掲載しているが、家族等への周知が不十分である。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		LINE等を活用し、家族等への周知を今後、行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日のクローズミーティングで状況を確認し共有している。ヒヤリハット報告書を作成し、利用している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止チェックリストを用いて、定期的に職員が振り返りをするとともに、分析結果を会議で報告し、次の対応に生かしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に説明を行っている。		